場所　長野県北安曇郡池田町

面積　116ha

活動目的

・里山の整備・利用活動を通じ、自立的かつ持続的な里山の管理を図り、地域の活性化に資する。

・二次的な環境とそれに依存する動植物の保全に努め、生物多様性の観点から「豊かである」といえる自然環境を維持する。



サイト概要

大峰高原は池田町北部に位置する標高約1000mの高原である。南北に約3kmのなだらかな稜線が続き、西側は松本盆地に、東側は広津地区に落ち込む。かつては大峯山と呼ばれており、近代までは稜線部を中心に草原が広がっていた。戦後、開拓団の入植やリゾート化計画など土地利用の変遷を経て、草原の利用は徐々に縮小し、樹林化が進行している。一方で、七色大カエデ、中カエデ、白樺の森やキャンプ場といった自然資本を活かした観光地となっており、秋季には県内外から年4万人が来訪する。大峰高原里山整備利用推進協議会による、森林整備や教育、交流活動が行われている。また、草原性の希少動植物をはじめとした二次的環境を好む生物の生息地となっている。

土地利用の変遷

明治8年に編纂の『長野縣町村誌』によると当時ははげ山であった。また、昭和22年の航空写真をみると、ほぼ全域が草原であることがわかる。戦後直後、開拓地として開拓組合が入植したが、昭和41年に解散。昭和43年にはその跡地を利用しながら大峰牧場ができ、昭和46年にはリゾート基地開発計画が持ち上がったが、バブル崩壊と長野冬季五輪の終了などにより頓挫。現在牧場は閉鎖されているが、大カエデ、中カエデ、キャンプ場などへの来客は多い。草原は大部分で遷移が進み一部に残存するにとどまる。二次林や植林が目立つ。

サイト周辺の環境

本サイト東側は二次林を経て広津地区に至る。山がちな地形で、戦中まで養蚕の盛んな畑の広がる山だったが、現在は畑に植林後平野に降りた者が多く植林地が多い。西側は二次林や植林地、断層崖を経て松本盆地に至る。南北には同じ山系の尾根が連なる。

アピールポイント

七色大カエデは県内外から年4万人が来訪する町内随一の観光地であり、同時期の朝に出現する雲海や中カエデ、キャンプ場、白樺の森と合わせて県内外から多くの観光客が訪れる。標高1000m前後の冷涼な気候により、平野部とは異なった動植物相がみられる。国や県のレッドリストに掲載されている重要種が18種確認されている。大峰高原里山整備利用推進協議会が木材利用勉強会などの普及啓発活動を行っている。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

近代以前は採草地として利用されてきたと考えられる土地で、原生的な自然は一切残存せず、エリア全体に二次的な自然環境がみられる。現在民家や住宅等はないが、協議会や観光協会などの管理によって環境が保たれている。土地利用としては植林地（植生自然度6）が最も大きく59.0ha（46.4%）であり、二次林（植生自然度7）は36.3ha（28.6%）、草原（GIS上で判読）は1.9ha（1.5%）である。

【主な植生】

大カエデ西斜面の草原にはススキを優占種とする遷移初期の環境が広がっている。また、森林にはクリ、コナラなど二次林に特徴的な樹木がみられる。また、冷涼な気候のもと生育する陽樹のシラカンバや陰樹のミズナラもみられる。

【確認された主な動植物など】

【草原】
植物：ススキ、ヤマハギ、シラカバ、オカトラノオ、ワレモコウ、コウゾリナ、ナワシロイチゴ、ヨモギ、ハルリンドウなど
脊椎動物：ヤマシギ、ホンドタヌキ、イノシシ、ニホンジカなど
昆虫：スジグロチャバネセセリなど

【森林】
植物：クリ、ウリハダカエデ、ケチヂミザサ、シラカバ、コブシ、ガマズミ、イロハモミジ、コナラ、クリ、ウメモドキ、ヒカゲスゲなど
脊椎動物：ノウサギ、ニホンジカ、カラ類など
昆虫：オオムラサキ、ムモンアカシジミ、キバネセセリ、ミヤマカラスアゲハ、スジボソヤマキチョウなど



写真の説明：草原の概観



写真の説明：森林の概観

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

供給サービス：木材利用勉強会（白樺の森エリア・住友理工の森看板の周辺）
調整サービス：間伐、除伐・枝打ち、特殊地拵え、植栽（白樺の森エリア）
文化的サービス：SDGs講習会、森の里親交流木育活動、大カエデ等の観光資源としての活用

【主な植生】

大カエデ西斜面の草原にはススキを優占種とする遷移初期の環境が広がっている。また、森林にはクリ、コナラなど二次林に特徴的な樹木がみられる。また、冷涼な気候のもと生育する陽樹のシラカンバや陰樹のミズナラもみられる。

【確認された主な動植物など】

【草原】
植物：ススキ、ヤマハギ、シラカバ、オカトラノオ、ワレモコウ、コウゾリナ、ナワシロイチゴ、ヨモギなど
脊椎動物：ヤマシギ、ホンドタヌキ、イノシシ、ニホンジカなど
昆虫：スジグロチャバネセセリなど

【森林】
植物：クリ、ウリハダカエデ、ケチヂミザサ、シラカバ、コブシ、ガマズミ、イロハモミジ、コナラ、クリ、ウメモドキ、ヒカゲスゲなど
脊椎動物：ノウサギ、ニホンジカ、カラ類など
昆虫：オオムラサキ、ムモンアカシジミ、キバネセセリ、ミヤマカラスアゲハ、スジボソヤマキチョウなど



写真の説明：里親交流木育事業の様子



写真の説明：七色大カエデ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

エリア内に残存する草原が希少な動植物の生息、生育の場となっている。また、二次林やその林縁には森林を棲家とする希少な動植物が確認されている。

【確認された希少種】

【チョウ類：10種】①ギンイチモンジセセリ（環境省：準絶滅危惧種（NT）、長野県：準絶滅危惧種（NT））、②スジグロチャバネセセリ（長野県：準絶滅危惧種（NT））、③ヘリグロチャバネセセリ（長野県：準絶滅危惧種（NT））、④ヒメシジミ（環境省：準絶滅危惧種（NT）、長野県：留意種（N））、⑤ムモンアカシジミ（長野県：準絶滅危惧種（NT）、⑥オオムラサキ（環境省：準絶滅危惧種（NT）、長野県：留意種（N））
これらの他、環境省レッドリスト2020及び長野県版レッドリスト2015掲載種4種の生息が確認されている。
【ガ類：5種】⑪オナガミズアオ本土亜種（環境省：準絶滅危惧種（NT）、長野県：留意種（N））、⑫ウスミミモンキリガ（環境省：準絶滅危惧種（NT）、長野県：留意種（N））、⑬ミスジキリガ（環境省：準絶滅危惧種（NT））
これらの他、長野県版レッドリスト2015掲載種2種の生息が確認されている。
【脊椎動物：4種】⑯ヤマシギ（長野県：情報不足（DD））、⑰ヨタカ（環境省：準絶滅危惧種（NT））、⑱モリアオガエル（長野県：準絶滅危惧種（NT））、⑲アカハライモリ（環境省：準絶滅危惧種（NT）、長野県：準絶滅危惧種（NT））
【維管束植物：2種】⑳ハルリンドウ（長野県：準絶滅危惧種（NT））、㉑センブリ（長野県：準絶滅危惧種（NT））
【水生昆虫：2種】環境省レッドリスト2020及び長野県版レッドリスト2015掲載種2種の生息が確認されている。



写真の説明：ハルリンドウ

生物多様性の価値

価値（7）分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性のある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場

【場の概況】

①標高1000m前後の冷涼な草原が広がっており、これに依存する種が複数生息している。
②また、日本では本州のみに産するが記録が非常に少なく、やや標高が高くクロウメモドキの生育するような環境にのみ生息すると考えられる種が生息している。

【確認された分布限定種、特異な環境へ依存する種】

①または②に該当する4種の昆虫類の生息が確認されている。

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

生物多様性の価値を維持するために管理すべきものとして、環境を2つ、個体やその周辺環境を2つ、種を19つ選定した。その上で、各々に対して管理目標を設定し、それを達成するための活動計画をそれぞれ策定した。

【環境】
草原、二次林の2つを選定し、いずれも遷移を抑制するような管理を目標とした活動計画を策定した。

【個体やその周辺環境】
七色大カエデ、中カエデの2つを選定し、個体そのものや景観、生物多様性維持の観点から重要な周辺の草地の維持を目標とした活動計画を策定した。

【種】
重要種としてあげた19種を選定した。それぞれの種が過去に確認された地点や好む環境が【環境】であげた草原あるいは二次林であることから、それらの活動計画を基本としながら、各種を保全するために刈り残すべき特定の植物など、各重要種に即した活動計画を策定した。

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
・左記の環境2つ、個体やその周辺環境2つ、種19つ。
・重要種確認時の出現種（主にチョウ類、ガ類、鳥類）

【モニタリング場所】
環境：草原3箇所、二次林
個体やその周辺環境：七色大カエデ、中カエデ
種：過去に確認されている地点など

【モニタリング手法】
環境：草原＝定期的な巡回　二次林＝協議会の活動成果の蓄積
共通：遷移抑制状況の確認
個体やその周辺環境：観光協会による日頃の巡回
種：わかぜん（保全団体）による任意観察・出現種の記録

【モニタリングの実施時期及び頻度】
環境：　草原＝4-10月（月1回）　二次林＝通年
個体やその周辺環境：5-11月（月1回以上）、その他の月は随時
種：各種の成虫出現期、飛来期、花期

【モニタリング実施体制】
【協議会】二次林
【観光協会】七色大カエデ、中カエデ
【わかぜん】草原、各種